

2025 年 8 月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時2025/8/2 (土) 10:00～16:00
2. 開催場所アイテック・インターナショナル
3. 会員参加者<敬称略> S：オンサイト出席・L：オンライン出席、欠：欠席、書：書記、休：休会

大見	書	牧野	欠	横尾	S	城越	S	伊藤	S	舟山	S	出島	S	水田	S
山口(展)	S	黒田	S	鈴木	S	池田	S	山口(直)	S	前田	S	木村	S	藤井	S
北村専務	L														
河合	休	杉浦	休	福田	休										

4. 研究会内容（敬称略）

1）事例相談「加工電流」（山口展）

加工機の電流を用いた検査方法について議論した。

2）事例相談「ガイド汚れ」（木村）

今後の評価の方法や結果のまとめ方について議論した。

3）RQES2025 報告：砥石接触音のMT法解析によるダイヤモンド砥石のツルーイング良否判定 日本工業大学

砥石接触音のExctp解析とMT法の組み合わせによりダイヤモンド砥石のツルーイング完了判定の自動化を検討した、という発表内容。MD値の閾値を1.1に設定している点について議論した。バラツキを加味すると閾値が厳しすぎて延々と合格にならない可能性があるとの指摘があった。（前田）

4）RQES2025 報告「赤外線分光法による樹脂熱劣化のRT法による劣化判別」矢崎総業(株) 山口直

本研究は、樹脂熱酸化劣化をIRスペクトル波形で従来用いられるカルボニル基の小さなピークだけに頼らず、品質工学のRT法を適用して差異を判別・数値化する試みである。前処理したナイロン66の劣化波形を解析した結果、マハラノビス距離により劣化前後を判別でき、カルボニル基以外のアミド基も有効な特徴量となることを確認した。また劣化時間と距離の相関から劣化予測の可能性が示唆された。低温条件では判別が困難であり、今後はAPRT法による感度向上と劣化モデル構築が課題である。

5）RQES2025 報告「学校教育におけるC6カンファレンス行列によるアルミー両面テープの接着強度のパラメータ設計」

学会発表の内容をもとに、カンファレンス行列を活用する際の留意点を議論した。（池田）

6）教材開発報告（現状分かっている課題と年末までの進め方整理）：山口（直）、鈴木

主な議論の内容は、以下の通り。教材開発なので教育としての「目的」を絞った方がよい。
また紙コプターについては、しっかりと回るサンプルにした方がよいということで、制御因子を絞った方がよいとのこと。SN比の計算は望目（望大、望小ではない）。演習時間の3時間はどこまで含むか、つまりサンプル作成時間を含むのか、11月の合宿でこれらを踏まえてどこまで準備するかが議論になった。

7）事務局連絡

- ・ 招聘候補：棟近先生、加納先生 森先生、二ノ宮先生・・・
- ・ 対外：シンポジウム 10/3 業務改善事例 10/22
- ・ 合宿 あいち健康の森プラザ 予約済
- ・ 秘密保持契約：5条変更 個人名義作成（原則）
捺印不要 研究会事務局で保管（出島さん）
- ・ 入会者歓迎会、退会送別会の会費：本人負担補助→本人負担ゼロ
- ・ 出張時：日当：2000円/日 交通費、宿泊費負担 経費処理は中部品質管理協会